

特集

これが本当の 救急医療 “ネクストステージ”

救急医療における ICT 活用、AI 活用、アプリケーション開発は、いまだ黎明期にあると考えられます。市民、消防機関、救急外来、ICU、そして慢性期病院や在宅医療とつながっていく救急医療の流れのなかで、患者に関する情報は分断され、これらの境目では紙媒体や電話、FAX による情報伝達に頼らざるを得ないのが現状です。

一方、救急医療においては必ずしも「電子化」が絶対正義ではないというのも事実です。紙媒体にメモ書きをするのが緊急時にもっとも“速い”情報記載手段であることは疑いようもなく、中途半端に電子化することで逆に面倒になることも、実際に現場で働く医療スタッフは数多く経験してきているものと思われます。

しかし、このような特性がある領域であるからこそ、救急医療における ICT の活用は「やっておしまい」ではなく、「適切に使われて役に立つ」ような方策を徹底的に探るべきものと考えます。ICT 化のメリットは「情報共有性の向上」と「情報検索性の向上」であり、このメリットを最大化する使用シーンを十分に考慮する必要があります。また、今般の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、救急医療・集中治療・災害医療における ICT や AI、アプリケーションの活用は、かつてないほどに注目を浴びているところでもあります。

このような背景をふまえて今号の特集では、最先端の ICT や AI 技術などの救急医療における活用事例を、さまざまな角度から多数取り上げることとしました。先端技術を豊富に取り入れたドクターカーや、AI を活用した音声入力カルテ、画像診断や身体診察を支援する AI、virtual reality 技術による教育、機械学習による phenotyping、そして COVID-19 診療を円滑にするシステム開発など、それぞれの分野で活躍・挑戦を続ける先生方から事例を交えてご紹介いただいております。

このような最先端の取り組み・チャレンジを知ることで、救急医療における ICT 活用の未来に思いを馳せ、産業界・学術界での各種取り組みが横断的・有機的に連携していくビジョン、救急医療の“本当のネクストステージ”を思い描き、そして、動く。読者の皆さまにとってそのきっかけになることを願って、本特集をお届けいたします。